



「私の息子は今、地獄にいます。
死にゆく息子に、私はキリストの救いを
伝えることができませんでした。

しかし、皆さんにはまだ救われるチャンスがあります。
どうかイエス・キリストを信じて、
恐ろしい地獄から救われてください。」

涙の宣教師

第2次世界大戦後、デイビッド・ブラウンというイギリス人宣教師が来日し、関東のある小さな市で、20年近く、キリストの福音を熱心に伝えました。彼はいつも聴衆に向かって、涙を流しつつ、上記のように語り続けました。

息子の死

若くして一流企業の営業部長になったブラウン氏は、美しい妻と息子に恵まれ、何不自由なく幸せに暮らしていました。ところがある日、小学2年生だった息子が突然体調を崩し、病院へ担ぎ込まれました。駆けつけたブラウン氏が見たのは、苦しそうに息をする息子の姿でした。ブラウン氏に抱えられながら、その子は尋ね

ました。

「お父さん。僕、死んだらどこに行くの？
どうなるの？」「そんなこと言うんじゃない。
死にやしない。大丈夫だ。」

しかし、その子の心臓は徐々に弱って行き、ついにブラウン氏の腕の中で、息を引き取りました。

息子を失った後、彼の生活は一変し、酒におぼれる毎日が続きました。特に彼を悩ませたのは、「僕、死んだらどこに行くの？」と尋ねた息子に答えられなかったことでした。

答えを求めて

そんなある日、両親がキリスト信者であったことを思い出した彼は、久しぶりに教会に行きました。彼が牧師に「死んだ

息子は、今どこにいるのですか」と尋ねると、「息子さんは天国にいます。天国の存在を信じてください」と答えが返ってきました。これを聞いたブラウン氏は、傷んだ自分の心が幾分慰めを得たような気がしました。

ところがあるとき、彼が聖書を読んでいると、次のような聖句が目飛び込んできました。

「御子を信じる者は永遠のいのちを持つが、御子に聞き従わない者は、いのちを見ることなく、神の怒りがその上にとどまる」 — ヨハネの福音書3章36節

心配になった彼は先日の教会を訪れ、再び牧師にこう尋ねました。

「私の息子は、御子イエスに聞き従ってはいませんでした。この聖句によれば、つまり、息子には神の怒りがとどまっていることになります。これは本当ですか。」

「ブラウンさん。聖書をそのまま信じる必要はありません。息子さんは天国にいます。私のこの言葉を信じてください。」牧師であるあなたが、聖書よりも人間の言葉を信用しろというのですか。」

牧師に不信感を抱いた彼は、自分の不安をぬぐえませんでした。

本当の答え

その後、同じ職場のジョンという敬虔なクリスチャンに、彼はこう切り出しました。「ジョン、君の集っている教会では、聖書

と牧師のどちらの言うことが正しいんだい。」「ブラウンさん、私は自分の教会の牧師を信頼しています。なぜなら、私も私の牧師も、聖書が誤りのない神のみことばであると堅く信じていますから。」

次の日曜日、早速ブラウン氏はジョンの集う教会に行き、その教会の牧師に、先ほどと同じ質問をしました。

すると牧師は顔を曇らせ、聖書を手に語り始めました。

「ブラウンさん、恐縮ですが、私には一時的な気休めを言うつもりは一切ありません。まず、質問させてください。息子さんはイエス・キリストを信じておられましたか。」「いいえ。」「では、聖書通りに語らせていただきます。あなたの息子さんは、今、火と硫黄の燃える、永遠の地獄で苦しんでいると言わなければなりません。」「どうしてですか。神は愛でしょう。あんなに可愛いかった息子が、そんな恐ろしい地獄にいるなんて、私には到底理解できません。」「確かに、神は愛なる御方です。しかし、同時に、神は罪人の罪をさばかれる、義なる御方です。失礼ですが、あなたの息子さんは、罪を犯したことが一度もなかったのでしょうか。」「いいえ。ずいぶんわがままでした。少々甘やかしていたもので…。」「神は、罪人を地獄から救うために、ご自分のひとり子、イエス・キリストを、この世に遣わしてくださいました。そして、この御方にすべての人間の罪を負わせ、私たちの身代わりに十字架につけ、罰してくださいました。十字架で死なれた主イエスは、





宣教師として日本へ

その後、日本に対する福音宣教の必要を知った彼は、宣教師として来日したのです。彼は一人でも多くの日本人が永遠の地獄から救われることを願い、涙とともに冒頭の言葉を語り続けました。

最後に、あなたにもお尋ねします。あなたは最愛の人から死後の行き先を聞かれたなら、何とお答えになりますか。その答えに確かな根拠はありますか。どうして人間は死を恐れるのですか。

キリスト教会では、死後にある、人間の罪に対する神のさばきを、聖書から明確にお伝えします。そして、根拠のない人間的、一時的気休めではなく、聖書に基づく、真の希望をお伝えします。神はあなたを愛され、天国に招いておられます。どうか、今、ご自分の死について、愛する人の死について真剣にお考えください。そして教会にお越しください、聖書から福音のメッセージをお聞きください。そして願わくは、イエス・キリストをお信じになり、罪の赦しと永遠のいのちを持つ方となってください。

「主を求めよ。お会いできる間に。呼び求めよ。近くにおられるうちに。…主に帰れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださいから。」 — イザヤ書55章6,7節

死後3日目の朝によみがえられました。神は、この御子イエスを自分の救い主として信じる者の罪を赦し、死後に地獄ではなく、天国へ入れる者としてくださいます。つまり、キリストを信じる者はだれでも救われますが、信じない者はだれ一人救われません。」「先生。今からでも息子を救える方法はありませんか。」「非常に残念ですが、もう手遅れです。生きている間にキリストを信じるしか、救われる方法はないのです。」

大きなショックを受けたブラウン氏は、この教会に来たことを後悔しました。しかし、自分も自分の息子も、義なる神の前に罪人である事実は否定できません。しかも、聖書は天地を創造された神のみことばです。人間の感情や信念、時間や空間をはるかに超える神の宣言を、いったいだれが覆せるでしょう。さらに、イエス・キリストが死後3日目に復活されたことは、紛れもない歴史的事実です。この御方以外に、まことの神、まことの救い主は存在しません。

ブラウン氏は大声を上げて泣きました。「神がご自分のひとり子を十字架につけるほど罪人を愛され、信じる者に天国への道を備えてくださったのに…。父親である自分がキリストを信じていなかったばかりに、大切な息子にそれを伝えることさえできなかつたのだ。」

彼は心から悔い改め、妻とともにイエス・キリストを救い主として信じました。

